

グローバルゼーションに対する認識と英語力

—日本人女性と韓国人女性との比較—

かれいらまつぎき じゅんこ
カレイラ松崎 順子*

1. はじめに

近年「ヒト、モノ、カネ、情報」などの移動が国境を越えて地球規模で盛んになり、政治的・経済的・文化的な境界線、障壁がボーダーレス化するグローバルゼーションという言葉が様々な場面で使われている。そのようなグローバルゼーションに伴って、世界共通語としての英語の役割はますます拡大しており、英語圏の人々とだけでなく、英語を母国語としない者同士のコミュニケーションツールとして英語を使用する人々が増えており、アジアの中でも英語は重要な言語となっている。さらに、韓国は日本以上の学歴社会であり、親は小さいころから子どもの教育に投資している。そのため親の教育熱は高く、教育費の増大が社会問題となっている。そのような中、韓国は1997年度に小学3年生から英語を正規教科として取り入れており、小学校、中学校、高等学校の教育課程の確立、国定教科書や教材の開発、充実した教員養成、研修制度など、周到な準備のもと英語教育が小学校に導入された（樋口 2005）。それに伴い早期英語教育が過熱化し、所得による教育格差、すなわち所得が多い家庭の児童は英語塾に通い、また、早期留学に行くことができるなど親の所得が子どもたちの学校以外での英語学習への参与、さらには

英語力に影響を与えるなどの問題が生じている（カレイラ 2012）。一方、日本では韓国よりもかなり遅れて小学校への英語の導入が検討されはじめ、2011年度に外国語活動が必修化されたが、小学校での英語の教科化はまだ実現されていない。

ところで、隣国である日本と韓国では、生活・文化の面で儒教的規範が残っており、家父長制という共通認識でとらえることが可能である。特に、親子、夫婦関係など家族にかかわる価値観はこれらの国々の共通性として指摘することができる（瀬地山 1996）。同時に日本と韓国では様々な相違点が指摘されている。例えば、日本人は好奇心の強い国民であるということは様々な文献で指摘されており、鶴見（1981）は好奇心が強いのは日本が島国であり、歴史的に、開国・鎖国・開国・鎖国・開国という政策の交替が、くり返されてきたためだと述べている。さらに、尾山（2008）は日本人の気質は、熱しやすく、あまりはっきりした思想を持っておらず、日本に外来思想・宗教などが入って来ると、本来のものとはかなり違ったものに変容し、それまであった思想や宗教と並存していったと述べている。一方、尾山（2008:8）によれば、「韓国人は中国や日本からの侵略にたえずさらされていたため、その勢力と妥協して適当に生きることをしないで、ほとんど一

*東京経済大学准教授、2013/14年度客員研究員

貫して抵抗してきたこと、敵か味方かという旗色を鮮明にしておくことを余儀なくされた。そのため、白か黒かをはっきり言う性格を形成せざるを得なかった」と述べている。このように同じアジアでも日本と韓国では新しく入ってくるものに対する認識にかなりの違いが見られる。

では、グローバリゼーションや英語はこのような日本と韓国の女性にどのような影響を与えてきたのであろうか。今までグローバリゼーションや英語に関する比較研究が日本及び韓国を含むアジアでいくつか行われてきた。例えば、濱田 (2013) はグローバリゼーションに関する意識を「グローバル化支持意識」及び「保護主義的意識」の二つの側面からとらえた上で、それぞれの意識の規定要因を男女別、さらに日本、中国、韓国、台湾の4カ国・地域別に分けて分析した結果、伝統的価値観が強いほど保護主義的意識が強まる傾向があり、さらに、経済発展が進んだ日本、韓国、台湾の3カ国・地域において「グローバル化支持意識」あるいは「保護主義的意識」に対する収入の影響が見られる一方、中国では収入による影響は見られないことを明らかにしている。さらに、職業は「グローバル化支持意識」及び「保護主義的意識」にそれほど影響を与えておらず、とりわけ女性において職業による説明力が弱かったと述べている。また、「グローバル化支持意識」を従属変数にしたモデルは決定係数が全般的に低く、「グローバル化支持意識」は個人の属性によってうまく説明されず、社会的な文脈による影響を大きく受ける意識なのではないかと述べている。英語においては、小磯 (2011) が中国・日本・韓国・台湾における成人の英語力の比較を行い、海外のニュースを知るためにインターネットを使用するかどうか、欧米を訪問した経験

があるか、アジアを訪問したことがあるか、欧米人の知人がいるかどうか、アジア人の知人がいるかどうかなどの英語使用に対する積極的態度が各国・地域とも英語能力に大きな影響を与えていることを明らかにしている。特に、中国ではインターネットの影響力が強く、台湾では欧米人の知人・欧米訪問経験の影響力が、日本と韓国では欧米人知人・欧米訪問だけではなくアジア人の知人・アジア訪問が影響力をもっていたと述べている。

このようにアジアにおいてグローバリゼーションや英語に対する意識調査はいくつか行われてきたが、ジェンダー、特に、女性に焦点をあてた研究はほとんど行われていない。東アジアの先進国である日本と韓国の女性が、グローバリゼーションや英語に対してどのような意識を持っており、さらに、それらが国の違いによりどのように異なるかを探ることは極めて現代的なテーマであり、大きな意義があると言える。ゆえに、本研究ではグローバリゼーションの流れの中、日本と韓国の女性はグローバリゼーションや英語に対してどのような意識を持ち、生活をしているのかなど両国の違いを明らかにしていくことにした。

2. 方法

East Asian Social Survey (EASS) は、18歳以上の成人を対象にした日本・韓国・中国・台湾の4カ国・地域が参加する国際比較調査プロジェクトであり、2008年の調査では「東アジアの文化とグローバリゼーション」がテーマとして設定されている。2006年以降、2年に1度調査が実施されており、2008年のEASS2008では「東アジアの文化とグローバリゼーション」がテーマとして設定されている。本研究ではこの2008

年度のEASS2008を使用する。EASS2008は、日本では20歳～89歳の男女、韓国、台湾、中国では18歳以上の男女を対象とし、面接法または面接・留置法の併用で行われた。有効回収数は日本2,160名（回収率60.6%、2008年10～12月実施）、韓国1,508名（回収率61.0%、2008年6～8月実施）、台湾2,067名（回収率44.9%、2008年7～9月実施）、及び中国3,010名（回収率47.8%、9～12月実施）であった。本研究ではこのうち、日本人女性1,156名及び韓国女性815名のデータを使用した。EASS2008の調査テーマは「東アジアの文化とグローバリゼーション」であり、調査項目には、価値観、グローバリゼーションへの態度と評価等の様々な項目が含まれている。

これらのうち本研究では、グローバリゼーションに関する項目として「国際的な移住」（項目56-57）、「グローバリゼーションとナショナリズムに対する態度」（項目58A-58C）、「グローバリゼーションに関する全体的な評価」（項目59A-59B）、及び「英語能力」（項目60A-60C）の項目を使用した。「国際的な移住」は自国での外国人が増えたほうがよいかについて問う項目である。1を“大いに増えたほうがよい”、5を“大いに減ったほうがよい”とする5件法であったが、本研究では一貫して反転項目を用いている。よって、得点が高ければ高い

ほど自国において外国人が増えたほうがよいと考えていることを意味する。「グローバリゼーションとナショナリズムに対する態度」は、自国の国益を重視し、これを保護しようとする意識を問う項目である。1を“強く賛成”、7を“強く反対”とする7件法であり、得点が高ければ高いほどナショナリズムに反対で、グローバリゼーションに好意的な考えを持っている。「グローバリゼーションに関する全体的な評価」は、グローバル化が「自国経済にとって」、「自国の雇用機会にとって」良いことか、悪いことかを問う項目である。1を“非常に良い”、7を“非常に悪い”とする7件法であったが、本研究では一貫して反転項目を用いている。よって、得点が高ければ高いほどグローバル化に賛成の立場であることを意味する。また、「英語能力に対する認識」は英語読解力、英会話力と英語を書く能力を問う質問項目である。1を“非常によく出来る”、5を“ほとんど／まったくできない”とする5件法であったが、本研究では一貫して反転項目を用いている。よって、得点が高ければ高いほど英語力が高いと考えていることを意味する。その他、学歴（表1を参照）、海外渡航歴（表2を参照）、及び英語能力のみ年齢（表3を参照）を分析に用いた。（以下の表1～13は全て筆者作成）

表1 国籍と最終的な学歴のクロス表

	最終的な学歴							合計
	正式な卒業資格なし	小学校	中学校	高校	短大	大学	大学院	
日本人女性	0	22	177	576	209	155	7	1,146
韓国女性	83	98	58	307	81	165	19	811
合計	83	120	235	883	290	320	26	1,957

表2 国籍と海外渡航歴のクロス表

		アメリカへの渡航歴		ヨーロッパへの渡航歴		アジアへの渡航歴	
		ある	ない	ある	ない	ある	ない
国籍	日本人女性	274	877	210	941	186	965
	韓国人女性	59	753	71	741	209	603
合計		333	1,630	281	1,682	395	1,568

表3 国籍と年齢のクロス表

		国		
		日本人女性	韓国人女性	合計
年齢	39歳以下	299	339	638
	40歳以上59歳まで	406	300	706
	60歳以上	451	175	626
合計		1,156	814	1,970

インタビューの回答は表現に自由度があるために、量的なデータよりも豊かなデータを得ることができ、生き生きとした例や説明が自分の言葉で語られ、予測していなかった問題を見出すことができる(Dörnyei 2001)。ゆえに、EASS2008の結果を補うために、日本と韓国の女性を対象にインタビューまたは自由記述式の質問紙調査を行った。参加者は日本人・韓国人各23名の20代から60代の女性である。EASS2008のグローバルゼーションと英語に関する項目を参考にして以下の八つの項目を質問した。

1. 自国で働く外国人労働者についてどう考えますか。増えたほうがよいと思いますか。減ったほうがよいと思いますか。理由などをお聞かせください。
2. 配偶者としてやってくる外国人についてどう考えますか。増えたほうがよいと思いますか。減ったほうがよいと思いますか。理由などをお聞かせください。
3. 自国の経済を守るために外国製品の輸

入は制限すべきだと思いますか。理由をお聞かせください。

4. 他の国と対立するとしても、自国の国益を追求すべきだと思いますか。理由をお聞かせください。
5. 外国の映画や音楽、本に触れる機会が増えることで、自国の固有の文化が損なわれていると感じることはありますか。理由をお聞かせください。
6. グローバル化は、自国の経済にとってよいことだと思いますか。理由をお聞かせください。
7. グローバル化は、自国民の雇用機会にとってよいことだと思いますか。理由をお聞かせください。
8. 英語はあなたにとって必要だと思いますか。英語に関してのご意見をお聞かせください。

3. EASS2008の分析結果

- (1) グローバリゼーションに対する認識
日本人女性と韓国人女性においてグロー

バリゼーションに関する7項目において有意な差がみられるかを検討するため、*t*検定により比較した（表4及び表5を参照）。その結果、項目56「外国人の労働者は増えたほうがよいと思います」、項目57「花嫁としてやってくる外国人は増えたほうがよいと思います」の項目に関しては日本人女性のほうが有意に高い得点を示していることから、日本人女性のほうが外国人を受け

入れる傾向があることが明らかになった。また、項目58B「他の国と対立するとしても、自国の国益を追求すべきだ」、項目58C「外国の映画や音楽、本に触れる機会が増えることで、自国の固有の文化が損なわれている」の項目に関しても日本のほうが有意に高い得点を示していることから、日本人のほうがナショナリズムに反対の立場をとっていることがわかる。

表4 グローバリゼーションに関する項目の女性の国別の平均値と標準偏差

項目	国	平均値	標準偏差
56.外国人の労働者は増えたほうがよいと思います	日本	2.78	0.81
	韓国	2.58	0.93
57.花嫁としてやってくる外国人は増えたほうがよいと思います	日本	2.78	0.76
	韓国	2.63	0.95
58A.自国の経済を守るために外国製品の輸入は制限すべきだ	日本	3.60	1.04
	韓国	3.68	1.37
58B.他の国と対立するとしても、自国の国益を追求すべきだ	日本	3.65	1.02
	韓国	3.28	1.32
58C.外国の映画や音楽、本に触れる機会が増えることで、自国の固有の文化が損なわれている	日本	4.40	1.04
	韓国	3.93	1.42
59A.グローバル化は、自国の経済にとってよいことだと思いますか	日本	3.50	1.20
	韓国	3.44	1.11
59B.グローバル化は、自国の人の雇用機会にとってよいことだと思いますか。	日本	3.95	1.19
	韓国	3.96	1.23

表5 グローバリゼーションに関する項目の女性の国別の *t* 検定の結果

項目	<i>t</i> 値	自由度	有意確率
56.外国人の労働者は増えたほうがよいと思います	4.88	1534	.00
57.花嫁としてやってくる外国人は増えたほうがよいと思います	3.55	1438	.00
58A.自国の経済を守るために外国製品の輸入は制限すべきだ	-1.50	1435	.13
58B.他の国と対立するとしても、自国の国益を追求すべきだ	6.86	1459	.00
58C.外国の映画や音楽、本に触れる機会が増えることで、自国の固有の文化が損なわれている	8.02	1411	.00
59A.グローバル化は、自国の経済にとってよいことだと思いますか	1.01	1734	.31
59B.グローバル化は、自国の人の雇用機会にとってよいことだと思いますか	-0.20	1673	.84

つぎに、学歴・海外渡航歴が各項目にどのような影響を及ぼすかを調べるために、日本と韓国の女性のデータに対して重回帰分析（強制投入法）を行った。その結果、どのモデルも、それぞれの決定係数は0.1前後と低い水準にあり、グローバリゼーションの認識には、学歴・海外渡航歴以外の要因が影響していることが示された。

(2) 英語能力に対する認識

ここでは英語能力（読む力・話す力・書く力）に対する認識について検討する。最初に日本人女性と韓国人女性において英語能力に対する認識に関する3項目において有意な差がみられるかを検討するため、*t*検定により比較した(表6及び表7を参照)。その結果、どの英語能力においても韓国人女性のほうが有意に高い得点を示した($p < .00$)。

表6 英語の能力に関する項目の女性の国別の平均値及び標準偏差

項目	国	平均値	標準偏差
60A.英字新聞の短い記事を読むことができますか	日本	1.53	0.85
	韓国	1.68	0.82
60B.英語でおしゃべりすることはできますか	日本	1.42	0.72
	韓国	1.65	0.80
60C.英語で手紙を書くことはできますか	日本	1.64	1.16
	韓国	2.25	1.42

表7 英語の能力に関する項目の女性の国別の *t* 検定の結果

項目	<i>t</i> 値	自由度	有意確率
60A.英字新聞の短い記事を読むことができますか	-3.74	1962	.00
60B.英語でおしゃべりすることはできますか	-6.71	1637	.00
60C.英語で手紙を書くことはできますか	-10.24	1519	.00

英語の能力の各項目に関して年齢別に日本人女性と韓国人女性との間に有意な差が見られるかを検討するため、*t*検定により比較した(表8から表13を参照)。その結果、「39歳以下」では項目60B「英語でおしゃべりすることはできますか」及び項目60C「英語で手紙を書くことはできますか」において有意な差が見られ、韓国人女性のほうが有意に高い得点を示した($p < .00$)。「40歳

以上59歳以下」では項目60C「英語で手紙を書くことはできますか」において有意な差が見られ、韓国人女性のほうが有意に高い得点を示した($p < .00$)。一方、「60歳以上」においては項目60A「英字新聞の短い記事を読むことができますか」において有意な差が見られ、日本人女性のほうが有意に高い得点を示した($p < .00$)。

表8 「39歳以下」の英語の能力に関する項目の女性の国別の平均値及び標準偏差

項目	国	平均値	標準偏差
60A.英字新聞の短い記事を読むことができますか	日本	1.86	1.01
	韓国	1.99	0.81
60B.英語でおしゃべりすることはできますか	日本	1.70	0.87
	韓国	1.99	0.79
60C.英語で手紙を書くことはできますか	日本	1.92	1.27
	韓国	2.89	1.36

表9 「39歳以下」の英語の能力に関する項目の女性の国別の t 検定の結果

項目	t 値	自由度	有意確率
60A.英字新聞の短い記事を読むことができますか	1.76	573	.08
60B.英語でおしゃべりすることはできますか	4.46	608	.00
60C.英語で手紙を書くことはできますか	9.32	635	.00

表10 「40歳以上59歳以下」の英語の能力に関する項目の女性の国別の平均値及び標準偏差

項目	国	平均値	標準偏差
60A.英字新聞の短い記事を読むことができますか	日本	1.57	0.82
	韓国	1.66	0.83
60B.英語でおしゃべりすることはできますか	日本	1.47	0.72
	韓国	1.59	0.78
60C.英語で手紙を書くことはできますか	日本	1.84	1.28
	韓国	2.18	1.42

表11 「40歳以上59歳以下」の英語の能力に関する項目の女性の国別の t 検定の結果

項目	t 値	自由度	有意確率
60A.英字新聞の短い記事を読むことができますか	1.44	703	.15
60B.英語でおしゃべりすることはできますか	2.09	703	.04
60C.英語で手紙を書くことはできますか	3.26	605	.00

表12 「60歳以上」の英語の能力に関する項目の女性の国別の平均値及び標準偏差

項目	国	平均値	標準偏差
60A.英字新聞の短い記事を読むことができますか	日本	1.28	0.67
	韓国	1.10	0.38
60B.英語でおしゃべりすることはできますか	日本	1.18	0.49
	韓国	1.11	0.39
60C.英語で手紙を書くことはできますか	日本	1.26	0.82
	韓国	1.16	0.68

表13 「60歳以上」の英語の能力に関する項目の女性の国別の t 検定の結果

項目	t 値	自由度	有意確率
60A.英字新聞の短い記事を読むことができますか	4.21	542	.00
60B.英語でおしゃべりすることはできますか	2.00	401	.05
60C.英語で手紙を書くことはできますか	1.51	387	.13

最後に、学歴・海外渡航歴が各項目にどのような影響を及ぼすかを調べるために、日本と韓国の女性のデータにおいて別々に重回帰分析（強制投入法）を行った。その結果、決定係数が0.2以上あったのは、日本人女性では項目60B「英語でおしゃべりすることはできますか」であり、学歴とアメリカ、アジア、ヨーロッパなどへの海外渡航歴に正の影響が見られた。韓国人女性では項目60A「英字新聞の短い記事を読むことができますか」項目60B「英語でおしゃべりすることはできますか」において決定係数が0.2以上あった。項目60A「英字新聞の短い記事を読むことができますか」においては学歴とアメリカへの海外渡航歴に正の影響が見られ、項目60B「英語でおしゃべりすることはできますか」においては学歴とアメリカ・アジアへの海外渡航歴に正の影響が見られた。

4. 質的調査

ここではインタビューないし自由記述式の回答結果を各項目にわけて検討していく。

質問項目1.「外国人労働者についてどう考えますか。増えたほうがよいと思いますか。減ったほうがよいと思いますか。理由などをお聞かせください」

日本人女性は23名のうち18名が外国人労働者は増えたほうがよいと考えており、韓国人女性は12名が増えたほうがよいと考え

ていた。回答を比較してみると、日本人女性は「様々な考え方を持つ人間が同じ世界にいた方がいいと考えているから。そうしたら少しは外国人へのおもてなしもできるようになるのではないかと考える」、「日本人だけが住みやすい国ではなく、世界中の人が住みやすい・訪れやすい国になりやすい気がする」、「もっと外国人との交流を日頃から深めるべきであると思うから」などのように現実的な問題ではなく、国際交流などの観点で回答しているものが多く見られた。一方で、韓国人女性は「勤労環境と時間に比べて少ない対価をもらうことについては処遇改善が必要である。外国人の労働者が主に自国民が嫌がる3K職種に勤めているだけに外国人労働者の増加は必要な部分であると思う」などのように現状を見つめたうえで、客観的に回答しているものが多かった。

質問項目2.「配偶者としてやってくる女性の外国人についてどう考えますか。増えたほうがよいと思いますか。減ったほうがよいと思いますか。理由などをお聞かせください」

配偶者としてやってくる外国人について肯定的な立場を示している日本人女性は14名で、その他残り全員が中立な立場をとっており、反対の意見を述べている人はいなかった。一方で、韓国人女性は9名が肯定的な立場を示しており、10名が中立的な立場をとっていた。日本人女性の回答を検討

してみると、「日本に海外の文化を持ち込んでくれそう」、「日本の子供たちもいろんな文化に触れることができるし、友達の幅が広がる」、「小さな村文化の中に『花嫁』が来ることによって文化的広がりをもたらすと思うからです。それは例えば、学校でも同じ。価値観の多様性を認識できると思います。子供に対する評価も多様になる効果も促進できると思います」など現実的な問題よりも外国人の配偶者が来ることによって文化や価値観が多様になるなどの観点から賛成している意見が多く見られた。一方、韓国女性には「農村や漁村の困った現実をみると、『外国人花嫁』の増加が期待される。彼女たちにもっと合法的な滞在の保障と待遇の措置が用意されるべきである」などのように交流よりも現実的な観点から意見を述べているものも多く見られた。

また、韓国女性では中立的な意見を述べているものも多く見られたが、「結婚は個人の選択と決定によるものであるため、問題はないと思う。ただし、外国人女性との結婚において基本的な要素が愛と信頼ではなく需要と供給の関係ならば減少したほうが良いと思う」、「配偶者同士でお互い愛し合って疎通できるのであれば構わないが、仲介業者を通した結婚は問題ありだと思う」、「仲介業者を通して韓国男性と結婚しに来る東南アジアの女性たちの多くは、本当の愛より他の目的によって来る人が多いと聞いているがそういう結婚に対しては反対であり奨励する必要はないと思う。その一方で、男女互いの利益にもとづく契約関係で結ばれたとしてもその中で幸せを見つけて家庭を築いていくことを見るとそれはそれでいいと思ったりする」など、仲介業者を通しての結婚に関しては反対であるが、本人同士が愛し合っているのなら

賛成であるという趣旨の意見がいくつか見られた。なお、日本人女性にはこのような意見は見られなかった。

質問項目3.「自国の経済を守るために外国製品の輸入は制限すべきだと思いますか。理由をお聞かせください」

制限すべきではない、または条件付きで制限すべきでないという意見を述べていた日本人女性は9名で、韓国女性には14名であった。日本人女性には「個人的には安くてもいいものが入ればありがたい」など日本の国の状況というよりも自分の事情により、門戸を広げておくべきだろうという意見が多かった。一方で、韓国女性には「韓国の経済のための最小限の保護さえあれば良いと思う。韓国経済だけを保護するために外国製品の輸入を制限することは国内の業者の発展にも役立たないと思う。単に中小企業の製品を保護する次元であれば国が他の方法で保護できる工夫をしなければならない。現在はインターネットなどを通じて購入が可能であるため、一定の部分を制限することは時代錯誤だと思う」、「韓国経済を守るためには適切な輸入制限も必要と思うが、何より内需が回復しないといけない。内需経済が回復するために、製品の競争力が確保できないといけない。品質・価格競争で外国製品との戦いで勝たなければいけないので、外国製品について詳しく把握しておかないといけないと思う。外国製品を理解するためにも輸入は必要である。鎖国は『井の中の蛙 大海を知らず』である」のように韓国の経済のことを考えると、輸入においても広く門戸をあけておくべきであるという意見を述べているものが多い。一方、輸入を制限すべきだという意見は制限すべきではないという意見に比べて少なかったが、両国とも農業、特に、

米の問題をあげている意見がいくつか見られた。

質問項目4.「他の国と対立するとしても、自国の国益を追求すべきだと思いますか。理由をお聞かせください」

日本人女性は6名が、韓国人女性は10名が他国と対立しても国益を追求すべきであると回答していた。日本人女性は「ほどほどに追求すべきであると思う。戦争などの争いになるのなら避けるべきであるが、日本も一つの国であるので、国益は大事であるから」、「日本の経済を成り立たせる程度には国益は必要だと思います。対立してもいいわけではないのですが」など国益を追求すべきであるが、戦争や対立などはなるべく避けなければならないと記載してあるものが多かった。一方で、韓国人女性の中には「韓国は先進国でも強大国でもない。対立を避けるばかりだと、韓国の国としての立場が危うくなり、自国民の安全を揺るがす問題が起こりかねない。領土問題など、本当に重要な国益のためには対立は当然といえる」などのように領土問題に触れて強く国益を追求すべきだと主張する意見がいくつか見られた。

質問項目5.「外国の映画や音楽、本に触れる機会が増えることで、自国の固有の文化が損なわれていると感じることはありますか。理由をお聞かせください」

外国の文化に触れることで自国の固有の文化は損なわれているとは感じていないと回答した日本人女性は19名で韓国人女性は15名であった。これらのことから両国の女性の多くが外国の文化に触れることにより自国の文化が損なわれているとは感じていないということがわかる。日本人女性は「外国の文化に触れることで逆に日本の良さを

見出し、日本の文化を大切にしようとしている人もいるのでそうは思わない」と述べており、韓国人女性も「固有の文化アイデンティティに損失はないと思う。固有の文化アイデンティティの問題より、固有の文化自体の魅力を高める努力をしたほうが大事だと思う。韓国固有の文化を保存する努力さえあれば、韓国文化の発展のためにも外国の文化を取り入れるべきだと思う」など両国とも外国の文化を取り入れることにより、さらに自国の文化の発展に寄与するのではないかと述べている意見が多かった。

質問項目6.「グローバル化は、自国の経済にとってよいことだと思いますか。理由をお聞かせください」

日本人及び韓国人女性ともに13名が、グローバル化が自国の経済にとってよいことだと思っていることが明らかになった。日本人女性は「日本は資源もなく小さな国なので、日本国内だけで経済の成長をはかるのは無理。ある特定の国々との関係だけでは必ずしも日本の経済によいとは言えない。本当のグローバルな視点をもっている必要があるのでグローバル化は日本の経済にとってよいことだと思う」、「現在の世界では、グローバル化を推進していかなくてはならないのではと思います。特に日本は、人口が先細りしていく状態にあるので、世界に目を向けて世界の市場でも勝負できるような力を得ていくことが必要なのではと思います」など日本の現状を考えるとグローバル化は必要であるという意見が見られた。一方で、韓国人女性は「グローバル化はインターネットで世界が一つにつながる今の時代に不可欠なことといえる。昔と比べ情報の共有、人と人のコミュニケーションも早くなっており、それによって世

界の人々が協力し合える関係になってきていると思う。人的資源がもっとも大事な今の時代にグローバル化は経済発展のための重要な要因となるだろう」、「グローバル化は良い悪いではなく、それを認めざるをえない時代になっており、グローバル化は当たり前だと思う。インターネットやスマートフォンなどの発達で世界のどこでもつながる時代である。このような時代に韓国経済とグローバル化は分離して考えられないと思う」などインターネットなどの情報通信技術（Information and Communication Technology：ICT）技術の発展に触れている意見がいくつか見られた。

質問項目7.「グローバル化は、自国の雇用機会にとってよいことだと思いますか。理由をお聞かせください」

日本人女性は11名が、韓国人女性は17名が、グローバル化が自国の雇用機会にとってよいことだと考えていると答えていた。具体的な回答を比較してみると、日本人女性は「良いことだと思う。就職難が続く現代では仕事の可能性が広がるから」、「良いことだと思う。日本人の外国進出にも影響すると思うから」と述べており、韓国人女性も「韓国は小さい国である。一方、教育熱心の国であり、世界に通用できる人材がたくさんいる国ともいえる。このようなメリットを十分生かしつつ、自国の国益のためにグローバル化を進めたほうが良いと思う」、「韓国人が外国で働けるチャンスが増えるのではないかと思う」などのように両国ともグローバル化により海外での仕事の幅が広がるという趣旨の回答が多かった。

質問項目8.「英語はあなたにとって必要だと思いますか。英語に関してのご意見をお聞かせください」

日本人女性は2名以外全員が、韓国人女性は1名以外全員が、英語が必要であると回答していた。日本人女性は「日本にとどまってはいけない、世界中の人と関わって生きていけるようになるためには英語が必要不可欠だと思う」、「必要である。多くの人とコミュニケーションをとるうえで、持っておくべき能力であると思う」、韓国人女性は「英語は必要だと思う。韓国語ではない英語で接するとき、より多くの情報を迅速に接し得る場合もあるからです」、「必要だと思う。国際共通語として必要だと思う」など両国とも様々な観点から英語が必要であるという意見が述べられていた。

5. 考察

ここでは量的調査と質的調査をあわせて各項目について検討していく。

外国人労働者に関しては、量的・質的調査ともに、韓国人女性より日本人女性のほうが外国人労働者の受け入れに賛成であるという結果が得られた。ただし、質的調査の各参加者の回答を比較してみると、日本人女性は外国人との交流という観点から外国人労働者の受け入れに賛成であるという意見が多い一方で、韓国人女性は韓国の労働環境の現状を客観的に見つめたうえで外国人労働者が必要であると回答しているものが多かった。外国人配偶者に関して量的・質的調査ともに、韓国人女性よりも日本人女性の方が外国人配偶者を受け入れる傾向が見られた。一方で、日本人女性の質的調査の回答には、項目1の外国人労働者に対する回答と同様に、外国人配偶者が海外の文化を持ち込んでくれるなど文化的な交流を主とする意見が多く見られた。一方で、韓国人女性の回答には賛成・反対・中

立のどの意見においても韓国の現状を客観的にとらえて回答している意見が多かった。これらのことから、「国際的な移住」に関する意見は日本人女性のほうが総じて賛成の意を表しているが、日本人女性は外国人という国際交流・文化交流などと考える傾向があり、日本の現状を客観的に分析した回答が少なく、日本人女性は韓国人女性と比較すると、社会問題に対して関心が低いのではないかと推測できる。また、これらのことは、好奇心が強く、熱しやすく、あまりはっきりした思想を持っていない(尾山 2008; 鶴見 1981) という日本人の特徴が影響しているともいえるであろう。

さらに、他国と対立しても自国の利益を追求すべきだという意見に関しても量的・質的調査ともに日本人女性のほうが韓国人女性より反対の意見を表しているものが多かった。また、韓国人女性は領土問題のことに触れている意見がいくつも見られたが、日本人女性は領土問題についての意見は見られなかった。これらのことから韓国人女性は領土問題にかなり関心が高いということがわかる。

文化に関する項目は量的調査の他の項目と比較して平均点がかなり高かった。同時に質的調査においても両国とも外国の文化に触れることにより、自国の文化が損なわれていると感じている人は非常に少なかった。一方、日本人女性と韓国人女性を比較すると、量質両面において日本人女性のほうが韓国人女性よりも自国の固有の文化は外国文化により損なわれているとは感じていないということが明らかになった。

量的調査において日本人女性と韓国人女性との間に、有意な差が見られなかった項目、すなわちグローバル化が経済に及ぼす影響に関しては、質的調査においても日本

人女性と韓国人女性の間には回答の差はあまり見られなかった。一方で、グローバル化が雇用に対して及ぼす影響と外国製品の輸入の制限に関しては量的調査では日本人女性と韓国人女性の間には有意な差が見られなかったが、質的調査では韓国人女性のほうが、グローバル化は自国の雇用機会にとって良いことだと思っており、さらに、韓国の経済状況を考えると外国製品の輸入を制限すべきではないと考えていることが明らかになった。すなわち、これらの項目のみ量的調査と質的調査の結果が異なった。

また、本研究結果においても学歴・海外渡航歴はグローバリゼーションに対する認識に影響を与えていないことが明らかになったが、グローバリゼーションに関しては個人の属性によってうまく説明されず(濱田 2013)、その他の要因が影響しているといえるであろう。

英語能力に関しては、韓国人女性の方がすべての英語能力において有意に高い得点を示していた。一方、年齢別に調べてみると、年齢が低いほど項目60B「英語でおしゃべりすることはできますか」と項目60C「英語で手紙を書くことはできますか」において韓国人女性のほうが有意に高い得点を示しており、60歳以上になると項目60A「英字新聞の短い記事を読むことができますか」においては日本人女性のほうが有意に高い得点を示していた。韓国では近年英語の必要性が叫ばれ、日本よりも進んだ英語教育、例えば、小学校での英語教育を日本よりも10年以上前から始めており、さらに、ICTなどの技術を英語教育に積極的に取り入れてきたが、このような努力が今回の結果に表れたのではないと思われる。一方、60歳以上の女性が中学や高校に通っていた時代は、今よりも更に韓国は日本よりも女性の社会進出や進学率もかなり低

かった。また、その当時日本の英語教育は今よりも文法訳読を中心とした詰め込み教育を行っており、このような社会状況が今回の結果に表れたのだと思われる。

さらに、重回帰分析の結果、日本人女性は項目60B「英語でおしゃべりすることはできますか」において学歴とアメリカ、アジア、ヨーロッパなどへの海外渡航歴に正の影響が、韓国女性には項目60A「英字新聞の短い記事を読むことができますか」においては学歴とアメリカへの海外渡航歴に正の影響が見られ、60B「英語でおしゃべりすることはできますか」においては学歴とアメリカ・東南アジアへの海外渡航歴に正の影響が見られた。すなわち、日本人女性は、学歴が高ければ高いほど、また、場所には限らず海外渡航歴があればあるほど、自分自身の英語のスピーキング力が高いと認識する傾向があるといえる。一方、韓国女性には、項目60A「英字新聞の短い記事を読むことができますか」においては学歴が高ければ高いほど、アメリカへの海外渡航歴があればあるほど、項目60B「英語でおしゃべりすることはできますか」においては、それらに加えて東南アジアへの渡航歴がある人ほど自身の英語力を高いと認識していることが明らかになった。ところで、韓国女性の場合項目60B「英語でおしゃべりすることはできますか」のみに東南アジアへの渡航歴が影響していたが、近年フィリピンやシンガポールなど廉価に留学できるアジアの英語圏に韓国女性が多く留学しており、特に、フィリピンなどでは1対1のマンツーマン授業が主流となっている。そのようなことが本研究の結果に影響しているのではないと思われる。

最後に、質的調査の結果から両国ともほとんどの女性が、英語が必要であると感じていることがわかった。すなわち、グロー

バル化に対しては両国においてかなりの認識の違いが見られたが、英語の必要性に関しては両国の多くの女性が、英語が必要であると感じており、両国の認識にあまり違いがみられないことが明らかになった。

6. おわりに

グローバル化と英語に関する量的・質的調査を日本人及び韓国人の女性に行った結果、量質ともにほぼ同様の結果を示した。第一に、日本人女性のほうがグローバル化を受け入れている傾向が見られたが、英語能力に関しては韓国女性のほうが自らの英語能力を高いと認識していることが明らかになった。第二に、質的調査により韓国女性には自国の経済・社会の状況を考え、グローバル化は必要である、あるいは必要でないと回答していたが、日本人女性には国際交流や文化交流の観点からグローバル化が必要であると考えていた。すなわち、本研究結果から日本人女性には韓国女性と比較するとグローバル化を受け入れているという結果が見られたが、それは社会的問題や経済的問題に対して疎い傾向があるためではないかと推測できる。グローバル化が広がる今日において女性の活躍が期待されている。ゆえに、日本人女性には国際交流という観点からのみならず、より客観的にグローバル化をとらえ、社会や経済の問題などにもっと目を向けていくべきであろう。

謝辞

下記の資料を使用させていただき、誠にありがとうございました。

East Asian Social Survey (EASS) is based on Chinese General Social Survey (CGSS), Japanese

General Social Surveys (JGSS), Korean General Social Survey (KGSS), and Taiwan Social Change Survey (TSCS), and distributed by the EASSDA.

参考文献

- 尾山令仁 (2008) 「キリスト教の受容—日本人と韓国人を比較して—」『経済系：関東学院大学経済学会研究論集』第234集、1-17。
- 小磯かをる (2011) 「中国・日本・韓国・台湾における成人の英語力の比較と各国/地域の若者層の英語力の規定要因—EASS 2008のデータをもとに」『大阪商業大学論集』第7巻、第2号、19-33。
- カレイラ松崎順子 (2012) 『韓国の英語教育とEBSeの果たす役割』ブイツーソリューション。
- 瀬地山角 (1996) 『東アジアの家父長制—ジェンダーの比較社会学』勁草書房。
- 鶴見和子 (1981) 『好奇心と日本人』講談社。
- 樋口忠彦 (2005) 「諸外国における小学校外国語教育」樋口忠彦ほか編『これからの小学校英語教育—理論と実践—』研究社、1-33。
- 濱田国佑 (2013) 「東アジアにおけるグローバル化意識の規定要因—EASS 2008を用いた4カ国・地域の分析から—」『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集』13、105-115。
- Dörnyei, Z. (2001). *Teaching and researching motivation*. Harlow: Longman.